

雌阿寒岳

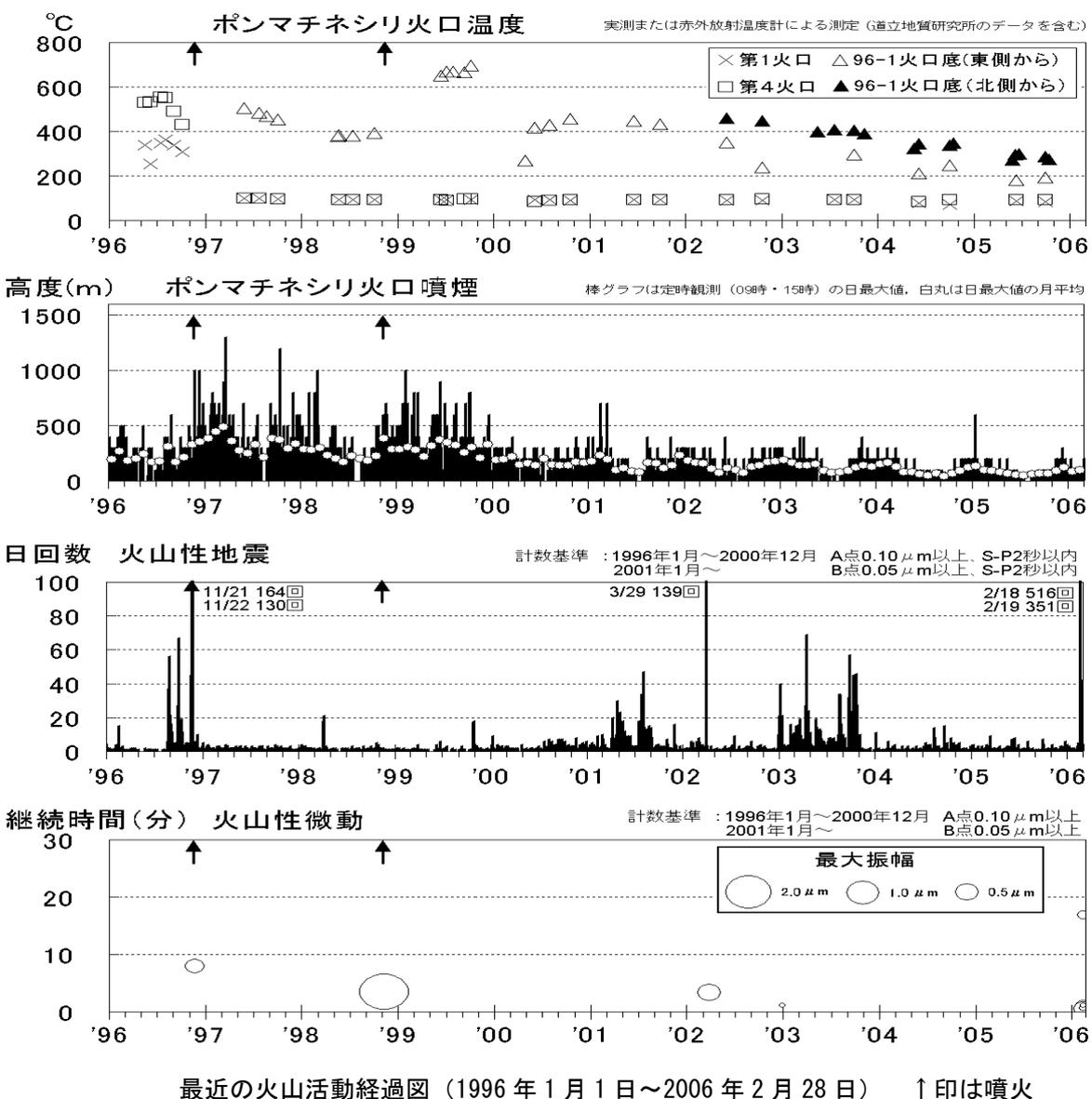
1 概況

2月18日～19日に火山性地震が多発し、振幅の小さな火山性微動も観測されました。火山活動はやや活発な状態となっています。火口近傍では注意が必要です。

札幌管区気象台では、この活動に対し火山観測情報を発表しました。雌阿寒岳で火山情報を発表したのは、1999年9月13日の火山観測情報（臨時現地観測の結果）以来となります。

火山情報の発表状況

発表時刻	情報番号	内容
2006年2月18日16時05分	火山観測情報第1号	火山性地震の増加、火山性微動の発生
2006年2月19日15時10分	火山観測情報第2号	地震活動の状況、上空からの観測結果



雌阿寒岳の火山活動解説資料は気象庁の他に、北海道のデータも使用して作成しています。本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50m メッシュ（標高）』を使用しています。（承認番号 平17総使、第503号）

2 地震および微動の発生状況

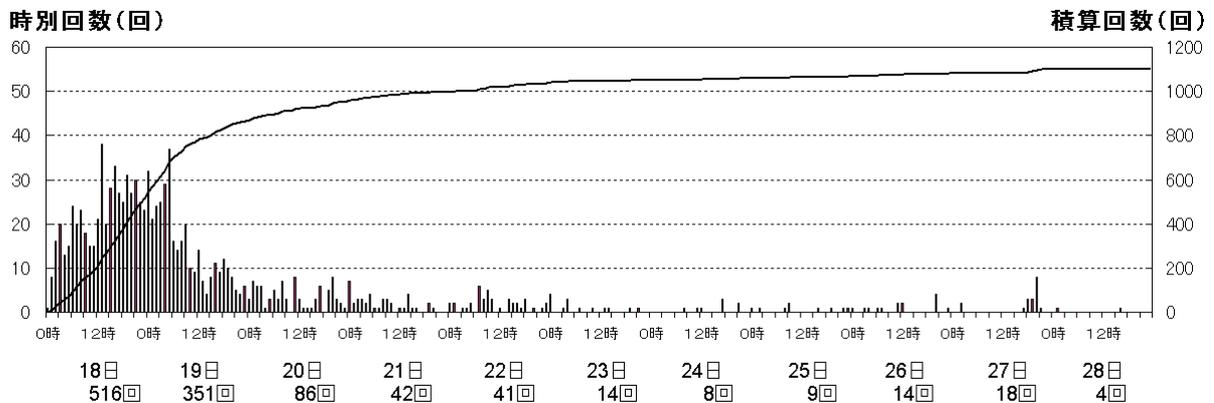
2月18日00時から振幅の小さな火山性地震が増加し、18日516回、19日351回（回数はいずれも暫定値）と多発しました。1日あたりの地震回数としては1973年に観測を開始して以来最多となりました（これまでの最多は1995年11月1日の300回）。地震多発の前後で、噴煙や地殻変動に特段の変化は認められませんでした。地震回数はその後減少しましたが、やや多い状態が続きました。

また、地震活動の活発化に伴い、振幅の小さな火山性微動が18日2回、19日2回、20日に1回発生しました（火山性微動の発生は2003年1月1日以来）。

地震・微動の月回数（B点）

2005～2006年	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
地震回数	32	20	20	40	14	16	18	22	20	44	22	1129
微動回数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5

※2006年2月の回数は暫定値です。後日変更される場合があります。



時別地震回数（暫定値、2006年2月18日～2月28日）

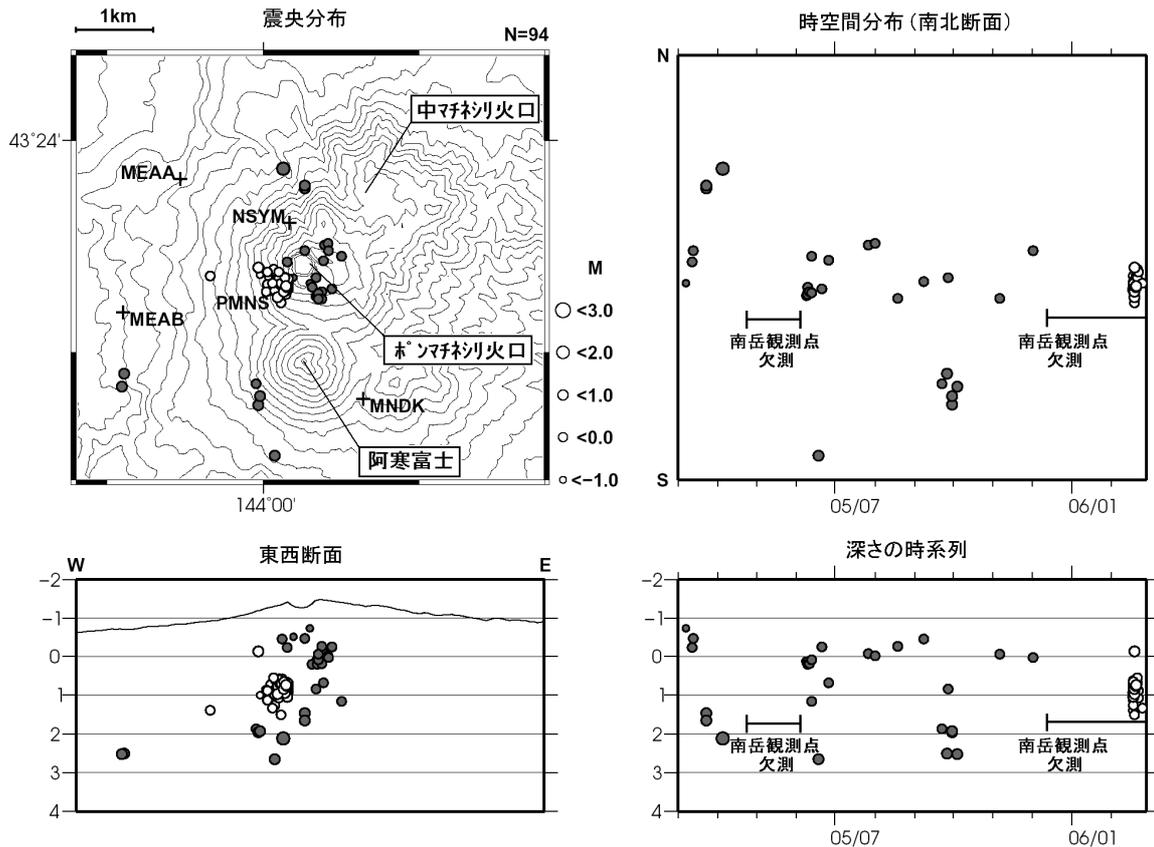
火山性微動の発生状況（2000年1月以降、B点での観測結果）

発生年月日	最大振幅	継続時間
2002年3月29日08時03分	0.64マイクロメートル	3分28秒
2003年1月1日02時07分	0.05マイクロメートル	1分9秒
2006年2月18日09時09分	0.22マイクロメートル	1分9秒
2006年2月18日09時27分	0.38マイクロメートル	38秒
2006年2月19日01時03分	0.07マイクロメートル	40秒
2006年2月19日06時50分	0.05マイクロメートル	1分11秒
2006年2月20日05時49分	0.14マイクロメートル	16分54秒

3 噴煙の状況

ポンマチネシリ96-1火口の噴煙の状況は前期間（2006年1月）と大きく変わらず、噴煙の高さは火口縁上おおむね100mで推移しました。2月18日以降の地震活動活発化に対応して、噴煙の状況に変化はみられませんでした。

2月19日に北海道の協力を得て実施した上空からの観測では、ポンマチネシリ96-1火口や中マチネシリ火口の噴煙に変化は認められませんでした。



雌阿寒岳の震源分布図 (丸印：震源、+印：地震観測点)

○印は今期間(2006年2月1日～28日)に求まった震源を示しています(64個)。

※2005年12月11日以降、南岳観測点障害のため震源決定能力が低下しています。2月18日以降の震源については精度の悪いものも含めているため、後日変更される場合があります。

●印は前期間までの11ヶ月間(2005年3月1日～2006年1月31日)に求まった震源を示しています(30個)。

これまで雌阿寒岳で発生した地震の多くは、ポンマチネシリ火口直下の海面付近と北西および南西山麓のやや深いところ(海面下約2～3km)に分布していますが、2月18日以降に求まった震源の多くは、ポンマチネシリ火口直下の海面下1km付近に集中しました。

震源分布図の説明

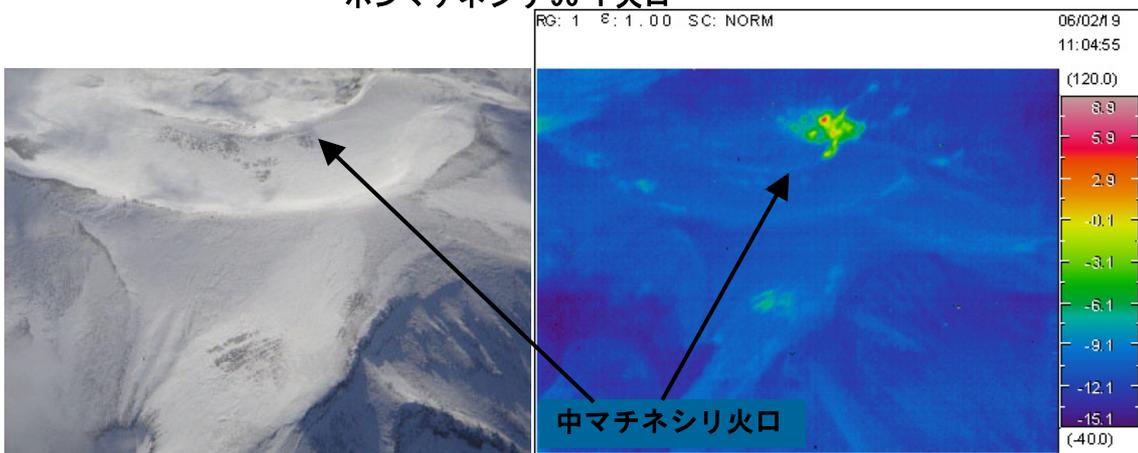
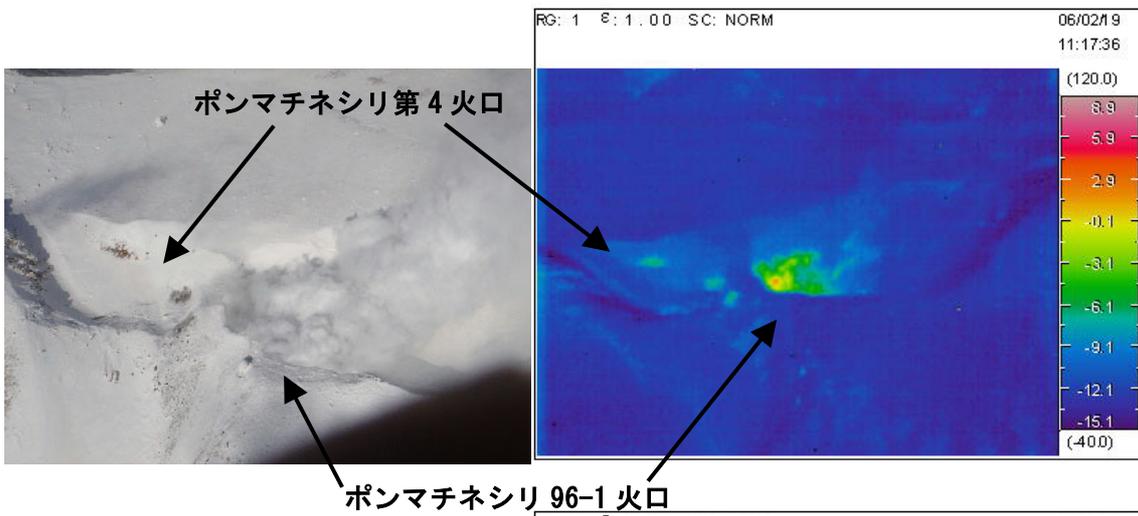
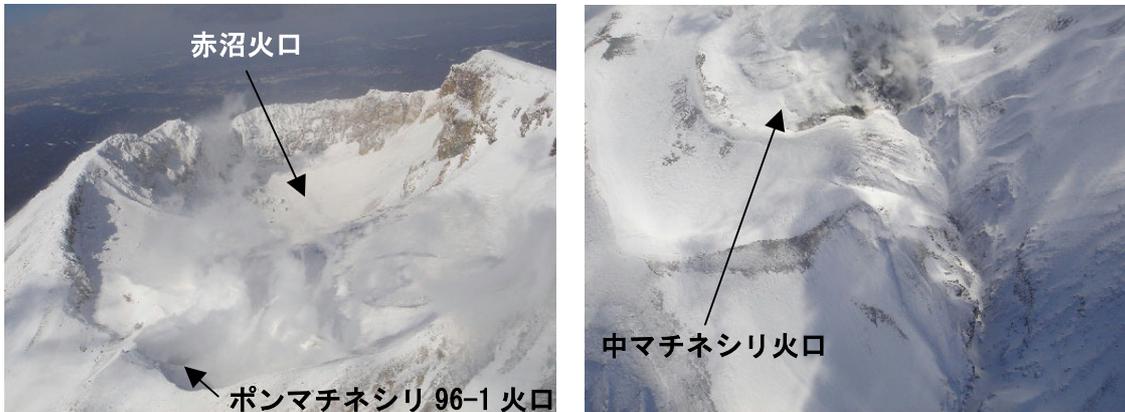
- ・東西断面：震央分布で表示された範囲を東西面に投影して、地震の垂直分布を示した図です。
- ・時空間分布：震央分布で表示された範囲を時間経過とともに南北面に投影することで、震央の位置がどのように推移しているかを示した図です。
- ・深さの時系列：時間経過とともに震源の深さがどのように推移しているかを示した図です。

4 上空からの観測結果

19日に北海道の協力を得て上空からの観測を実施しました。

ポンマチネシリ 96-1 火口や中マチネシリ火口の状況に変化はなく、噴煙にも変化は認められませんでした。また、火口周辺に噴出を示す痕跡は認められませんでした。

赤外熱映像装置*による観測でも、ポンマチネシリ 96-1 火口、及び中マチネシリ火口の熱活動の状況に変化はありませんでした。



機上観測によるポンマチネシリ火口及び中マチネシリ火口の状況

(2月19日：北海道の協力による)

上段左：南東側上空から撮影したポンマチネシリ火口の状況

上段右：北側上空から撮影した中マチネシリ火口の状況

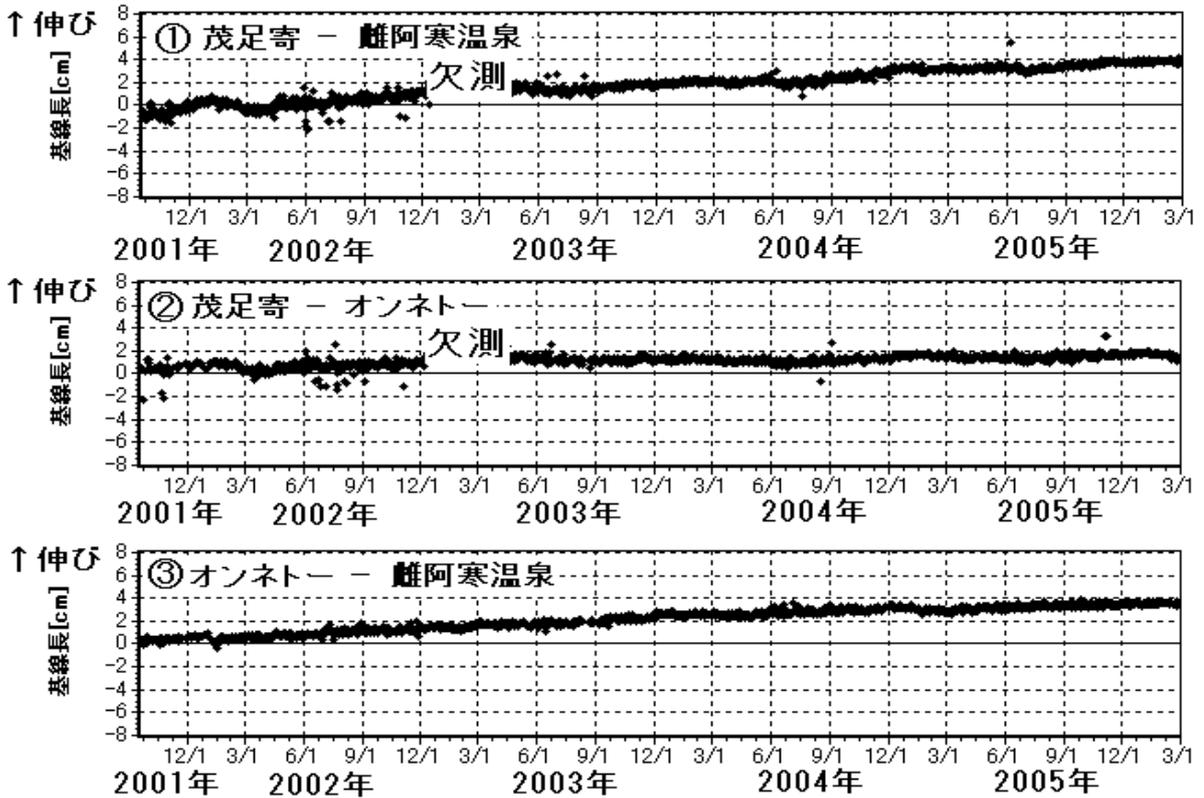
中段：南西側上空から赤外熱映像装置*により測定したポンマチネシリ火口内の温度分布

下段：東側上空から赤外熱映像装置*により測定した中マチネシリ火口内の温度分布

* 赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を検知して温度や温度分布を測定する計器です。熱源から離れた場所から測定できる利点がありますが、熱源から離れるほど測定される温度は実際の温度よりも低い値になってしまいます。また、噴煙や霧で測定対象が見えにくい場合には温度測定ができないこともあります。

5 地殻変動の状況

GPS 連続観測では、火山活動に関連すると考えられる変動は観測されませんでした。



基線長変化 (2001 年 9 月 19 日～2006 年 2 月 28 日)

